

開山・栞庵白純大和尚 十三回忌法要

二月五日、開山・栞庵白純大和尚の十三回忌法要が吉祥寺（東京都文京区）住職・岩本昭典老師を大導師にお迎えして執り行われました。（釈迦殿）





開山様庵白純大和尚頂相
ちんごう



成寿山善光寺開山樸庵白純大和尚十三回忌報恩供養法要香語

辱交ノ歲月^{ワケヅ}無量^{ナリ} 辱交^{じやくこう}の歲月はうたた無量

なり

十有三年^ハ如^レ夢^ノ亡^ス 十有三年は夢の如くに亡^{ぼう}ず

留得^{タリ}開創千古^ノ基 留め得たり開創千古^{もと}の基

善光寺畔^ニ看^ニ成祥^一 善光寺畔に成祥をみる

恭しく^{おもん}惟^レみれば、成寿山善光禪寺、此の日、平成

三年佛紀滅二千五百五拾七年二月五日の時、

当寺開山樸庵白純大和尚十三回忌之忌辰に相^あい値

う。即ち善光の蘭若裡を嚴^{ごんじやく}飾し、香華灯燭菓茶湯飲

食等を兼備し、遠近諸山の老貴宿を屈請し、以つて

供養を展^のぶ。集むる所の殊勲は、品位を増崇し奉る。

想うに、当寺開山白純大鉄翁は、辱知道交幾多年の

因みに、遺風烈々として感新らたなるもの有り。特

地に、現任大円武志方丈積年の法愛を享受するあり。

ここに迂衲をして、梅檀吉祥の淨香一片を拈せしむ。

更に本辰を下して、善光寺海外留学僧派遣育英会育

英生任命式をあげ、佛道探求の為に、育英を修設し、

報恩謝徳の道心に住して、慇懃裡に、開山十三回忌

酬恩の佛事を勤修す。

即今、想いは起す十三年前の事、想は到る十三年

後の事、白雲流水共に依々として、思いありて感窮

るものあり。正与磨の時、老大和尚未儀にやぶさか

ならざる底、如何が情量を絶せん。

嘆

只だ見る滿城春雪の後

東風は吹き送る古梅（樸）香

慈悲容納

平成三年二月五日 焼香比丘

吉祥寺文海昭典拜草



▲大導師・岩本昭典老師

▼第7回海外留学僧辞令伝達式に出席された皆様





▲焼香する参会の皆様

▼開山ゆかりの皆様と黒田方丈



